

銘柄紹介

グリーンペプタイド [4594・100 株] 10月22日 東証マザーズ市場上場

2015年10月1日(木)
更新: 7時37分
株式会社フィスコ

がん免疫治療薬を手掛けるベンチャー

投資スタンスと初値メド	
ブックビルディング参加	——
初値投資	——
初値メド	——

市場の注目度	★★★
想定仮条件レンジ	600円～610円
予想PER	-倍～-倍
予想トレーディングレンジ 期間: 上場後1年を想定	300円～800円
予想PER	-倍～-倍

※★印は5段階評価

日程	
仮条件提示	10月2日
ブックビルディング期間	10月5日～10月9日
公開価格決定	10月13日
申込期間	10月14日～10月19日
払込日	10月21日
上場日	10月22日

類似会社 3社			
平均PER	-倍	→	-円
テラ<2191>	-倍(連)	→	-円
サンバイオ<4592>	-倍(連)	→	-円
ヘリオス<4593>	-倍(連)	→	-円

(PERは9月30日前場の会社側予想ベース)

がん免疫治療薬の研究、開発、製造、販売を手掛ける。がん免疫治療薬は、がんの治療における手術・放射線療法・化学療法に次ぐ「第4の治療法」として近時注目を集めている。リード開発品のがんペプチドワクチンITK-1は富士フイルムヘライセンス・アウト済みで、現在は進行性の去勢抵抗性前立腺がんを対象とする国内第Ⅲ相臨床試験を実施中である。

バイオ関連の大型IPOは苦戦が続いているうえ、市況が不安定ななかで赤字ベンチャーのIPOへのリスクテイクは控えられやすい。また、11/4の日本郵政グループ3社の上場を前に、IPOに向かっていた短期資金も大型案件は手掛けづらいだろう。

ベンチャーキャピタル保有比率が高く、上場後も需給面への警戒感が強まりそうだ。

銘柄紹介

グリーンペプタイド [4594・100 株] 10月22日 東証マザーズ市場上場



新規公開株レポート

2015年10月1日(木)
更新: 7時37分
株式会社フィスコ

業績推移 (百万円・%)						
決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2012/3	194	—	29	—	27	—
2013/3	451	131.8%	219	637.0%	217	681.0%
2014/3	933	106.7%	19	-91.3%	17	-92.0%
2015/3	821	-12.0%	▲ 413	—	▲ 412	—
2016/3 予	832	1.3%	▲ 1,328	—	▲ 1,329	—
2015/6 1Q	206	—	▲ 277	—	▲ 278	—
2015/9 2Q 予	425	106.0%	▲ 659	—	▲ 660	—
予想 EPS/配当	単独:-41.78 円(上場時発行済株式数で試算)/0.00 円					

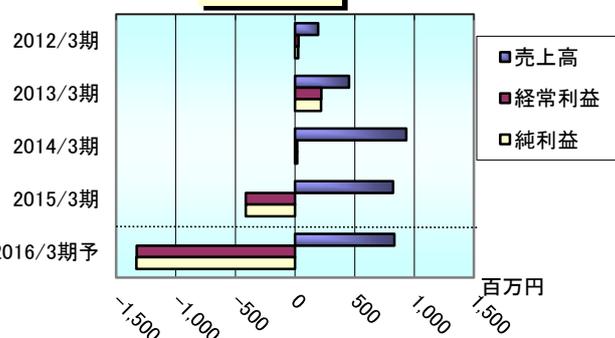
業績コメント

2016年3月期の業績は、売上高が前期比1.3%増の8.3億円、経常損失が13.2億円と赤字が継続する見通しとなっている。

足元では、同社のリード開発品であり、富士フィルムにライセンスアウト済のがんペプチドワクチンITK-1は、引き続き国内第III相臨床試験を実施中で、第三者機関である効果安全性評価委員会による中間解析評価が実施され、治験継続が認められている。ITK-1の知見を活かし、米国での研究開発、ライセンス・アウトを目指すGRN-1201については、治験申請のために必要となる非臨床試験を引き続き実施した。また、米国において契約コンサルタント、契約医師(キー・オピニオン・リーダー)一同を会したミーティングの実施、治験原薬、治験製剤の検討・製造及び毒性試験の実施など、治験届(IND)及び臨床試

験の開始にかかる準備を実施した。ITK-1第III相臨床試験の継続に伴う開発協力金の売上を見込む一方、GRN-1201は、今期中に第I相臨床試験を開始する予定だが、初期研究開発段階にとどまり、売上の発生は無い見通し。

業績動向



銘柄紹介

グリーンペプタイド [4594・100 株] 10月22日 東証マザーズ市場上場

2015年10月1日(木)
更新: 7時37分
株式会社フィスコ

基本概要	
所在地	福岡県久留米市百年公園
代表者名(生年月日)	代表取締役社長 永井 健一(昭和45年5月15日生)
設立	平成15年5月8日
資本金	6億4258万円(平成27年9月14日現在)
従業員数	22人(平成27年8月31日現在)
発行済株式数(上場時)	31,807,700株(予定)
公開株式数	公募6,500,000株 売出6,052,900株 (オーバーアロットメントによる売出1,882,900株)
想定公開規模	86.6億円~88.1億円(OA含む)
事業内容	がん免疫治療薬の研究、開発、製造、販売

売上高構成比率 (2015/3期 実績)		
品目	金額	比率
医薬品開発事業	821,625 百万円	100.0 %
合計	821,625 百万円	100.0 %

幹事証券団 (予定)			
	証券会社名	引受株数	引受シェア
主幹事証券	みずほ証券(株)	未定	未定
幹事証券	いちよし証券(株)	未定	未定
幹事証券	エース証券(株)	未定	未定
幹事証券	(株)SBI証券	未定	未定
幹事証券	香川証券(株)	未定	未定
幹事証券	マネックス証券(株)	未定	未定
幹事証券	東海東京証券(株)	未定	未定
幹事証券	藍澤証券(株)	未定	未定

銘柄紹介

グリーンペプタイド [4594・100 株] 10月22日 東証マザーズ市場上場

2015年10月1日(木)
更新: 7時37分
株式会社フィスコ

大株主上位 10 位

順位	株主名	保有株数	保有シェア
1	イノベーション・エンジン創薬支援投資事業有限責任組合	6,550,000 株	24.57 %
2	九州ベンチャー投資事業有限責任組合	2,975,000 株	11.16 %
3	アイビス新成長投資事業組合第2号	2,500,000 株	9.38 %
4	JSR・mbIVCライフサイエンス投資事業有限責任組合	2,000,000 株	7.50 %
5	三菱UFJキャピタル株式会社	1,750,000 株	6.56 %
6	イノベーション・エンジン三号投資事業有限責任組合	1,500,000 株	5.63 %
7	NVCC6号投資事業有限責任組合	1,000,000 株	3.75 %
7	NVCC7号投資事業有限責任組合	1,000,000 株	3.75 %
7	株式会社滋慶	1,000,000 株	3.75 %
10	安田企業投資3号投資事業有限責任組合	833,000 株	3.12 %
合計		21,108,000 株	79.17 %

その他情報

手取金の使途	米国で研究開発中のがんペプチドワクチン GRN-1201 の研究開発費、がん免疫療法領域における新規パイプラインの研究開発費及び事業運営経費に充当する予定	
関係会社	-	
VC 売却可能分(推定)	4 社 1,2550,000 株(売出し・保有期間などの制限があるもの以外)	
直近有償第三者割当	年月日	2014年8月29日
	割当先	イノベーション・エンジン三号投資事業有限責任組合 イノベーション・エンジン創薬支援投資事業有限責任組合 JSR・mbIVC ライフサイエンス投資事業有限責任組合 アイビス新成長投資事業組合第2号 三生5号投資事業有限責任組合 KSP3号投資事業有限責任組合 株式会社 滋慶 NVCC6号投資事業有限責任組合 NVCC7号投資事業有限責任組合
	発行価格	100 円

グリーンペプタイド [4594・100 株]
10月22日 東証マザーズ市場上場

2015年10月1日(木)
更新：7時37分
株式会社フィスコ

銘柄紹介

同社は、「がん免疫治療薬」の新規開発（現在は臨床試験段階）を行う創薬ベンチャーである。事業モデルや技術の特徴については以下のとおり。

(1) 事業モデル

基本的な事業モデルは、がん免疫治療薬シーズの探索研究から初期臨床試験までを行い、後期臨床試験からは国内外の製薬会社が開発製造販売権をライセンス付与し開発を委ね、そのライセンス先製薬会社からライセンス収入を得るものである。

医薬品開発は一般的に10年以上かかるが、各国当局の製造販売承認を得て上市される前でも、ライセンス先製薬会社から開発進捗に応じた関連収入（ライセンス契約締結時の一時金、その後開発進捗に応じて設定したいくつかのマイルストーンを達成する毎に得られる開発マイルストーン収入、上市後は製品売上高の一定割合となる販売ロイヤリティ収入等）を得られる。製薬会社へライセンス後に、開発協力金を得て開発を継続することもある。

同社の起源は、日本で長くがんペプチドワクチンの研究を行ってきた久留米大学発のベンチャー。久留米大学で1992年に始まる基礎研究と1998年に始まる臨床研究を終えたがんペプチドワクチンのシーズを、2003年の同社設立とともに特許譲渡を受けて承継し、治験に用いる薬品の製剤化検討から早期臨床試験までを自社単独で行ってきた。リード開発品のがんペプチドワクチン ITK-1 は、現在実施中である進行性の去勢抵抗性前立腺がんを対象とする国内第Ⅲ相臨床試験の開始前に富士フイルムへライセンス・アウトし、現在は本臨床試験の実施を受託し開発協力金を得ながら、本臨床試験を遂行している。

(2) 技術の特徴

同社が開発中のがん免疫治療薬は、人間の体が本来持つ免疫機構にがん細胞を攻撃させるがん治療薬である。免疫機構を司る様々な免疫細胞や免疫に関与する物質を活用し、免疫応答（特定ペプチドを攻撃の目印としてがん細胞を攻撃した経験＝免疫メモリー）をコントロールすることによって、がん細胞を死滅させたり、がんの再発・転移を防いだり、進行を遅らせたりする効果を有する。外科的に腫瘍を切除する手術療法とも、放射線でがん細胞を殺傷する放射線療法とも、化学合成物を直接がん細胞に作用させて殺傷する化学療法（いわゆる抗がん剤治療）とも作用メカニズムが異なるため、これらの治療が有効でなくなったがん患者にとって手術療法・放射線療法・化学療法に次ぐ「第4の治療法」となることが期待されている。

同社は、がん免疫治療薬の中でも、免疫機構を司る細胞傷害性T細胞（CTL）を活性化させがん細胞を殺傷させることを作用メカニズムとするがんワクチンを開発している。CTLはがん抗原を認識し、そのがん抗原を表面に提示するがん細胞を殺傷する機能を有する。

がん抗原は、がん細胞表面上にあって、CTLが正常細胞とがん細胞を見分けてがん細胞を攻撃するときの目印になるもので、現在の同社は、がん抗原としてペプチド（タンパク質の断片）を用いる「がんペプチドワクチン」を開発している。

グリーンペプタイド [4594・100 株] 10月22日 東証マザーズ市場上場

2015年10月1日(木)
更新: 7時37分
株式会社フィスコ



新規公開株レポート

投資のポイント

バイオ関連の大型 IPO は苦戦が続いているうえ、市況が不安定ななかで赤字ベンチャーの IPO へのリスクテイクは控えられやすい。直近のバイオ関連の IPO では、今年6月上場のヘリオス<4593>が公開価格を22.5%上回る初値となったものの、当時の IPO 人気の高まりが大きな要因であり、4月のサンバイオ<4592>、昨年9月のリボミック<4591>はともに公開価格を下回る初値形成となった。また、11/4の日本郵政グループ3社の上場を前に、IPOに向かっていた短期資金も大型案件は手掛けづらいただろう。

としては非常に大きい。ベンチャーキャピタル保有比率も87.2%と高く、売出株の放出を考慮しても上場時に発行済株数の50%超を占める計算となる。一部についてロックアップが解除される上場から90日経過後、または株価が公開価格の1.5倍高に接近する局面では特に需給面への警戒感が強まりそうだ。

同社は、日本で長くがんペプチドワクチンの研究を行ってきた久留米大学発のバイオ・ベンチャーである。同社の手掛ける「がん免疫治療薬」は、がんの治療における手術・放射線療法・化学療法に次ぐ「第4の治療法」として近時注目を集めている。リード開発品のがんペプチドワクチンITK-1は、現在実施中である進行性の去勢抵抗性前立腺がんを対象とする国内第Ⅲ相臨床試験の開始前に富士フィルムヘライセンス・アウトし、現在は本臨床試験の実施を受託し開発協力金を得ながら、本臨床試験を遂行している。

業績面について、2016年3月期は売上高が前期比1.3%増の8.3億円、経常損失が13.2億円と赤字が継続する見通しとなっている。グローバル向けがんペプチドワクチンGRN-1201の研究開発費などで、販管費の大幅な増加を見込んでいる。

公開規模については、マザーズ上場案件

銘柄紹介

グリーンペプタイド [4594・100 株] 10月22日 東証マザーズ市場上場

2015年10月1日(木)
更新: 7時37分
株式会社フィスコ

投資スタンスの見方

Aggressive (アグレッシブ)	積極的参加	投資収益率 100%以上が見込まれる案件
Active (アクティブ)	やや積極的参加	投資収益率 50%以上が見込まれる案件
Passive+ (パッシブ・プラス)	やや消極的参加	投資収益率 20~50%未満が見込まれる案件
Passive- (パッシブ・マイナス)	消極的参加	投資収益率 0~20%未満であり、マイナスの可能性のある案件
Negative (ネガティブ)	参加見送り	投資収益率がマイナスになる可能性が予想される案件

《 重要事項(ディスクレーム) 》

株式会社フィスコ(以下[フィスコ]という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

掲載される情報はフィスコが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものではありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

フィスコが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少する事もあり、価値を失う場合があります。

本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大する事を保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

フィスコおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ



■ 本資料のご留意事項

本資料は投資判断の参考としての情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。銘柄の選択、投資判断の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料は、SBI証券が、株式会社フィスコが信頼できると判断して作成したレポートを有償で提供を受けておりますが、その正確性、安全性等について保証するものではありません。本資料に掲載された意見は、作成日における判断であり、予告なしに変更される場合があります。本資料の著作権、知的所有権等一切の権利は株式会社フィスコに帰属しますので、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

■ 手数料およびリスク等について

国内株式取引の手数料

・株式取引にあたっては、所定の手数料がかかります（手数料はお客様の取引コース、取引チャネル、取引プランや売買代金等により異なることから記載しておりません）。詳しくは、SBI証券 WEB サイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は上場有価証券等書面等をご確認ください。

■ 国内株式取引のリスク情報について

・国内株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。
・信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失が発生する可能性を有しています。
・信用取引の対象となっている株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、その損失の額が、差入れた委託保証金額を上回るおそれがあります。

■ 留意点

・SBI証券が保有する株式等や主幹事担当会社の重要な開示事項（利益相反関係等）についてはSBI証券WEBサイト（http://search.sbisecc.co.jp/v2/popwin/info/home/pop690_kaiji.html）をご確認ください。または、カスタマーサービスセンター（0120-104-214（携帯電話・PHSからは03-5562-7530））までお問い合わせください。
・取引コースや商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、ウェブサイト、等をよくご確認ください。または最寄の支店までお問い合わせください。
・最終的な投資判断は目論見書の内容をご確認ください。目論見書は当該銘柄の取扱証券会社のホームページ等で入手いただけます。

商号等： 株式会社 SBI証券 金融商品取引業者
登録番号： 関東財務局長（金商）第44号
加入協会： 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 第二種金融商品取引業協会